

はじめに

2005 年は、世界で多くの災害が発生した年となりました。インド、パキスタンで発生した地震は、歴史上でも有数の規模の死者数をもたらす結果となり、被災者数という点では、インド、中国で広範に発生した洪水が大規模でした。経済被害といった点においては、米国を襲ったハリケーン・カトリナ、ウィルマが大きな被害を引き起こしました。またインド、パキスタン地震は地域の開発と経済発展に深刻な影響を及ぼし、洪水・集中豪雨によりインド、中国は多大なる被害を受けました。アフリカ地域では、干ばつのために大きな人的被害、経済的損害を被りました。ヨーロッパ地域では、2004 年と同様に、洪水や異常気温が発生し、多くの人々が被害を受けました。オセアニア地域では、暴風雨、火山が大きな人的・経済的被害をもたらしました。

自然災害による被害は、社会や経済、地球環境などの面で深刻な影響を与えています。さらに自然災害の頻度、規模が著しく増加しています。とりわけ、開発途上国においては、自然災害により引き起こされた経済損失額は、年間の GDP との比較で大きな数字であり、かつ全体額として近年急上昇していることから、持続可能な開発への大きな障害となっています。自然災害による被害は、不安定な経済情勢と絡み合っており、開発途上国の発展に負の影響を与える要因となっていることは明らかです。地域別には、過去 30 年間の統計を見てみると、アジア地域が、世界の中で最も災害による影響を受けた地域であり、世界全体の被災者数の約 90%、死者数と経済損失額の約 50%以上を占めています。

このように、発展の妨げとなっている自然災害に立ち向かい、効果的な防災メカニズムを構築するためには、過去の災害を分析し、災害の傾向を把握することが必要不可欠となっています。アジア防災センターでは、2005 年に発生した自然災害のデータを集め、その傾向を分析して本書を作成いたしました。この冊子が政策立案者、研究者のみならず、様々な開発活動に関し、草の根レベルで活躍されておられる方々にもご活用いただき、世界の持続可能な開発の一助となることを切に願っております。

2006 年 3 月

アジア防災センター